

利根川水系及び荒川水系のダム等の現状についてお知らせします

～少雨が長期間続き、多くのダム等で貯水量が平均を下回っています～

関東地方の水源地である利根川上流域及び荒川上流域では、本年6月から連続して少雨の状態が続いています。

今夏、猛暑の影響もあって減少した利根川水系及び荒川水系のダム等の貯水量は、水需要の減少とともに9月上旬から増加傾向となりました。しかし、その後も貯水量が大きく回復するような秋雨等のまとまった降雨もないまま、河川の流量が低減し、必要な流量を確保するためにダム等から放流を行っていることから、貯水量が徐々に減少しています。

現在は、河川流況や気象状況を注視しながら、きめ細やかなダム等の施設操作を行っていますが、利根川水系及び荒川水系のダム等の貯水量は、平均値を下回っており、特に荒川水系の4ダム合計の貯水率は40%に満たない状況となっています。

関東地方は、今後もしばらくの間、まとまった降雨が期待できる時期ではないため、ダム等を管理する関東地方整備局及び水資源機構では、引き続き慎重に水運用を行ってまいります。

なお、ダム等に貯留された水資源には限りがあります。限りある水資源を大切に使用していただいている皆さまに感謝申し上げるとともに、今後も引き続きご協力をお願いします。

《12月22日0時 ダム等の貯水状況》

利根川9ダム合計	貯水量 30,107万m ³	貯水率55% (過去平均の85%)
鬼怒川4ダム合計	貯水量 15,837万m ³	貯水率63% (過去平均の93%)
荒川4ダム合計	貯水量 5,611万m ³	貯水率39% (過去平均の65%)

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ 東京都庁記者クラブ
千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ 栃木県政記者クラブ 刀水クラブ・テレビ記者会 水資源記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 河川部 電話：048-601-3151 (代表) FAX：048-600-1379

河川環境課 課長 藤原 (ふじわら) (内線：3651)

建設専門官 田島 (たじま) (内線：3652)

水資源機構 電話：048-600-6543 (直通)

危機管理監付 課長補佐 鈴木 (すずき)

利根川・荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて



奥利根湖と利根川源流の山々（令和7年12月22日撮影）

令和7年12月24日

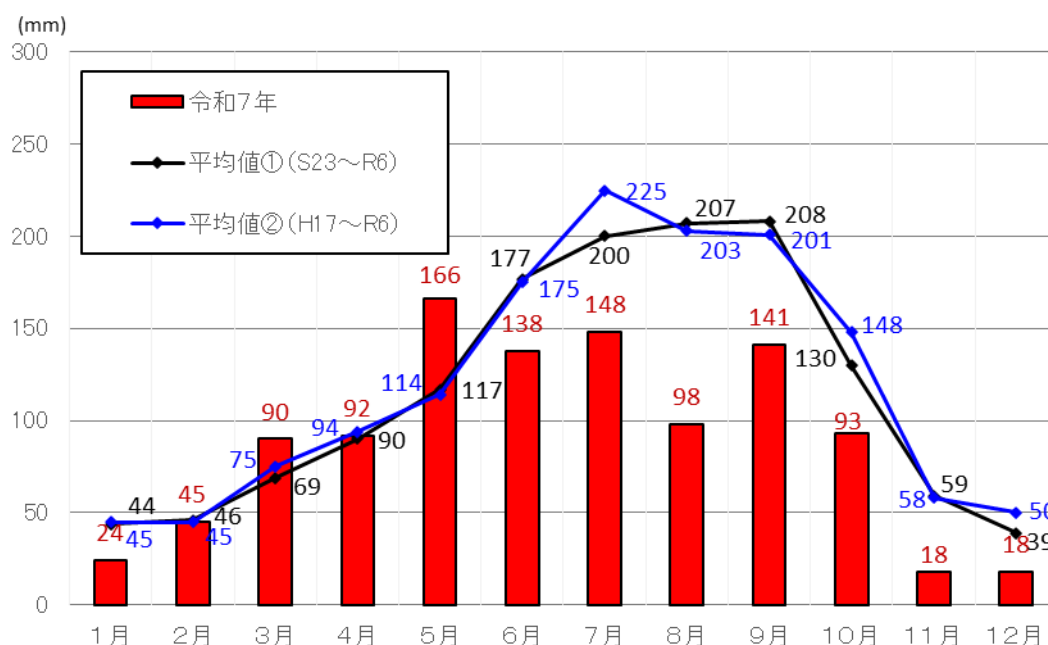
関東地方整備局

1. 利根川上流9ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和7年12月22日0時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における降水量は、6月以降、平均値（昭和23年～令和6年の77年間の平均）を下回り続けています。10月は平均値130mmの約7割である93mmとなりました。11月は平均値59mmの約3割である18mmと特に少ない状況となっています。（図－1、表－1 参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和7年12月22日0時まで）

表－1 利根川栗橋上流域平均降水量（令和7年12月22日0時まで） 単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成26年	18	114	75	58	83	330	192	218	87	221	70	57	1,523
平成27年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431
平成29年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454
平成30年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324
令和5年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216
令和6年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444
平均値① (S23~R6)	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,386
平均値② (H17~R6)	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433
令和7年	24	45	90	92	166	138	148	98	141	93	18	18	1,071
平均値①に 対する割合	55%	98%	130%	102%	142%	78%	74%	47%	68%	72%	31%	46%	77%

注）平均値①はデータが存在する期間（77ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 矢木沢ダム地点、奈良俣ダム地点、藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況

(令和7年～令和8年 冬期)

《積雪深・降雪量》

今冬の各地点の積雪深は、現状では平均値を下回っています。

藤原地点の気温は、月平均で平年に対して、11月は $\pm 0^{\circ}\text{C}$ 、12月は18日までで $\pm 0^{\circ}\text{C}$ と平均並みかやや低温の状況です。

(図-2～7 参照)



図-2 観測地点の位置

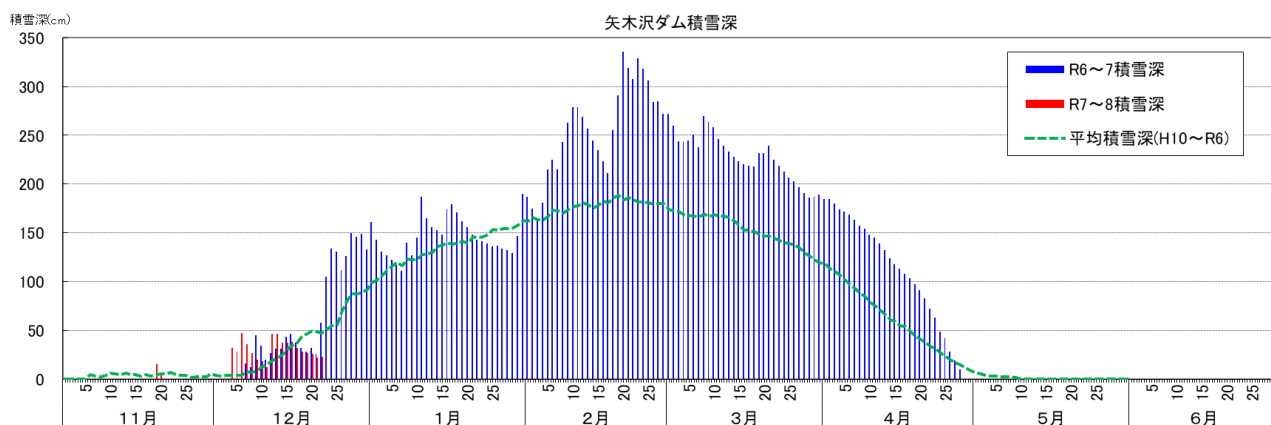


図-3 矢木沢ダム地点の積雪深 (令和7年12月22日9時まで)

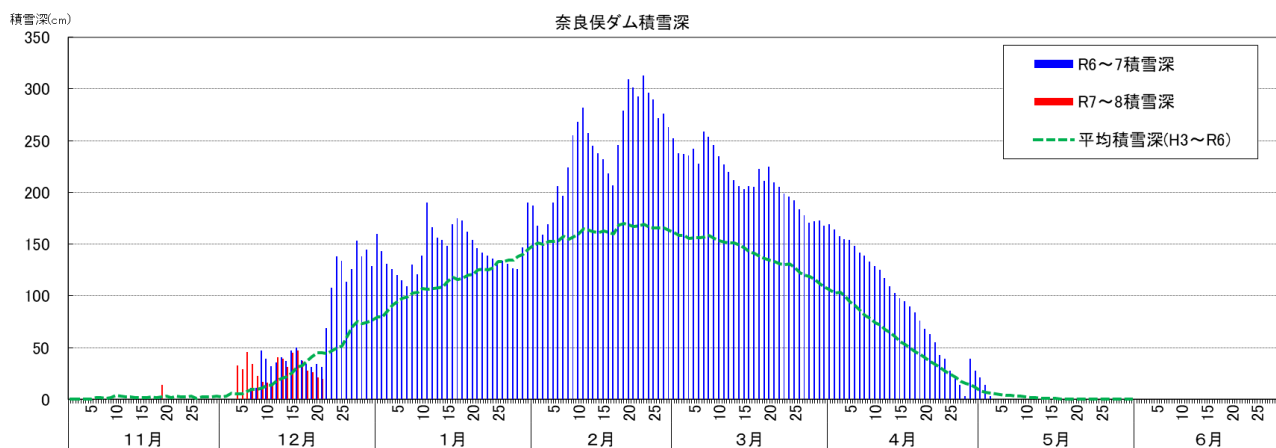
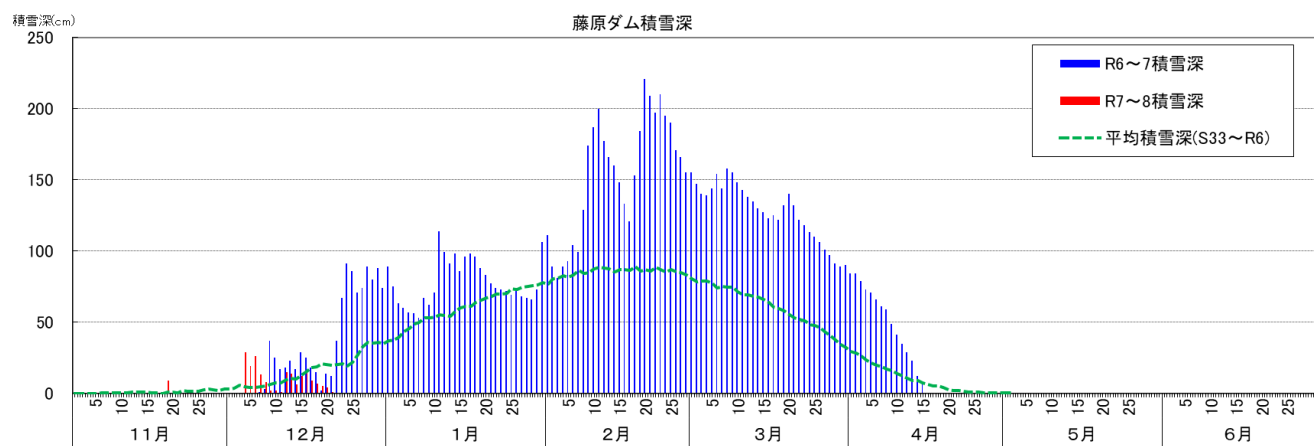
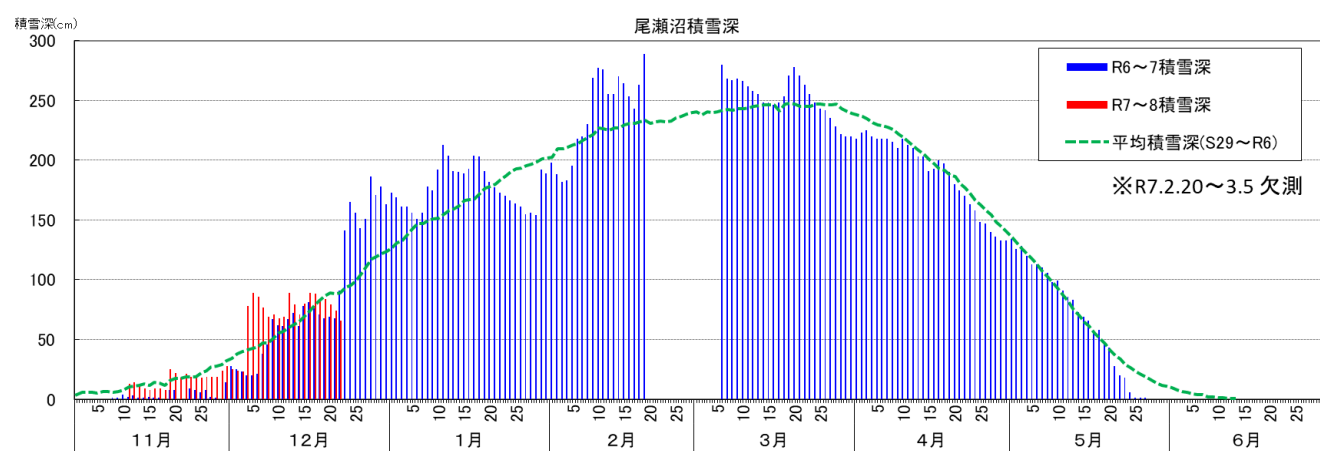


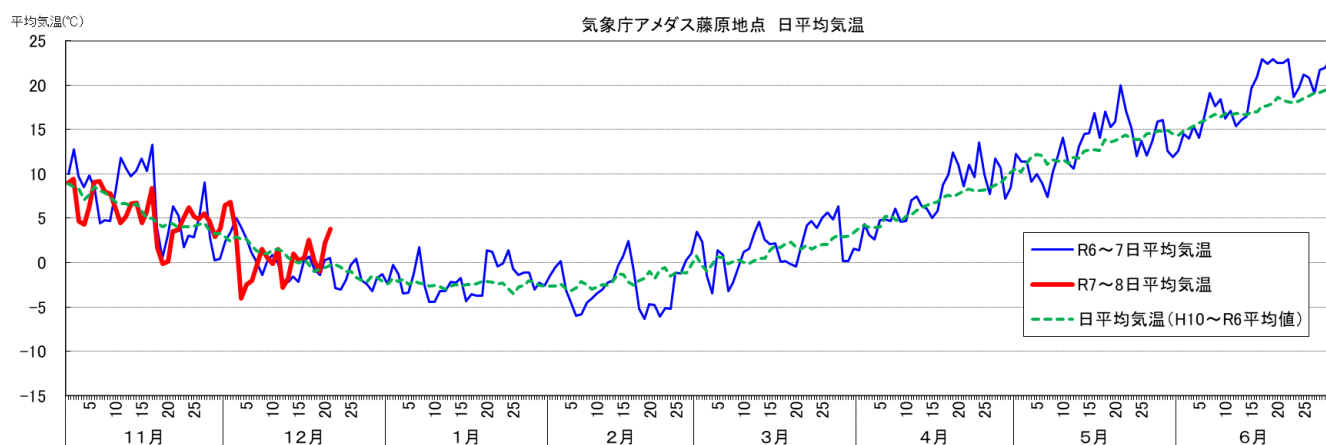
図-4 奈良俣ダム地点の積雪深 (令和7年12月22日9時まで)



図－5 藤原ダム地点の積雪深（令和 7 年 12 月 22 日 9 時まで）



図－6 尾瀬沼地点の積雪深（令和 7 年 12 月 22 日 9 時まで）

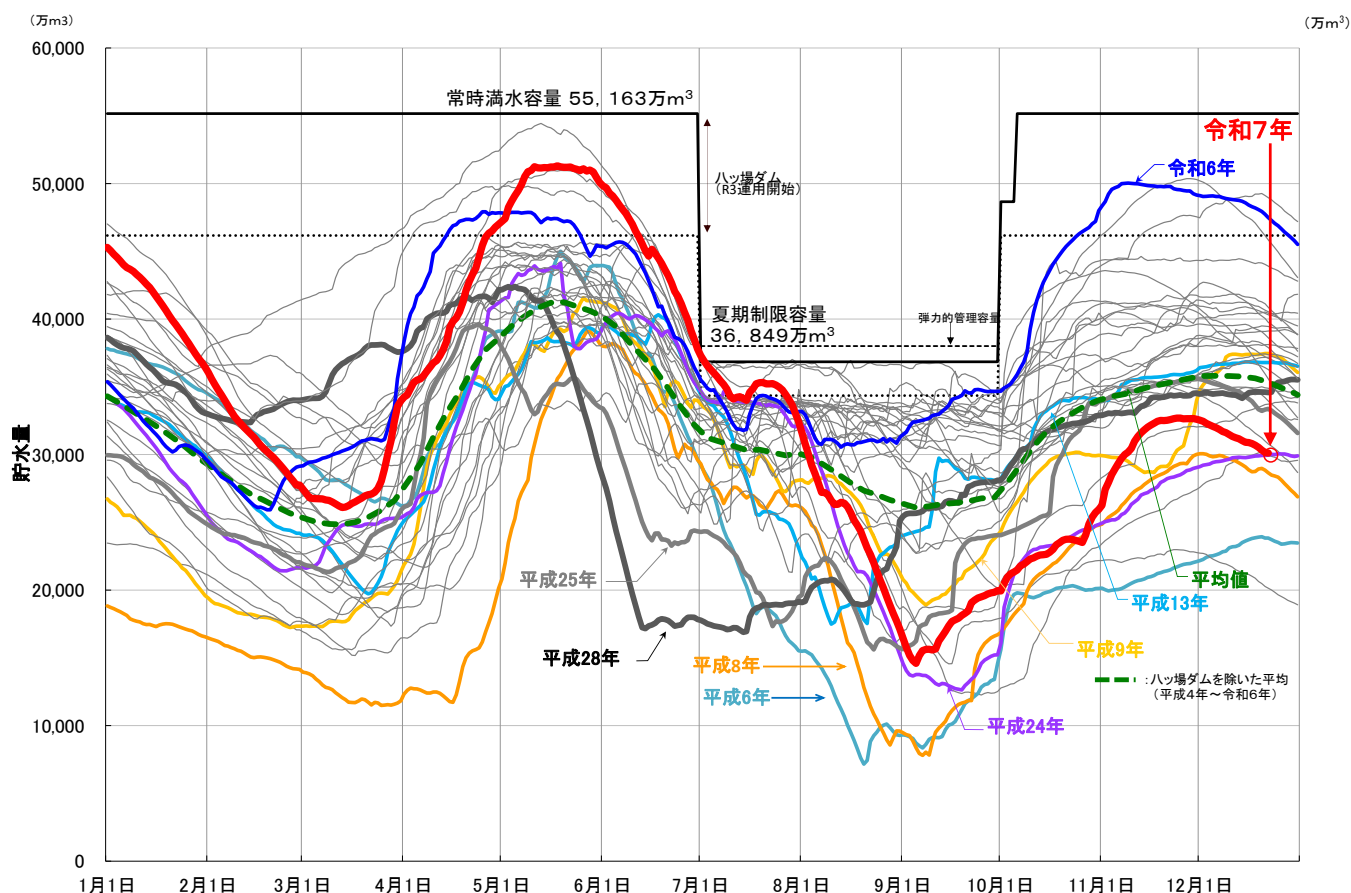


図－7 藤原地点日平均気温（令和 7 年 12 月 21 日まで）

3) 利根川上流 9 ダムの貯水状況等（令和 7 年 12 月 22 日 0 時現在）

利根川上流 9 ダムでは、9 月以降、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は回復しました。その後、貯水量が大きく回復するような秋雨等のまとまった降雨もなく、11 月下旬から徐々に貯水量が減少し、令和 7 年 12 月 22 日 0 時時点の合計貯水量は 3 億 0,107 万 m³（貯水率約 55%）になっています。

（図－8、表－2 参照）



図－8 利根川上流 9 ダム合計貯水量図（令和 7 年 12 月 22 日 0 時現在）

表－2 利根川上流 9 ダム ダム別貯水量（令和 7 年 12 月 22 日 0 時現在）

ダム名	有効容量 (万 m ³)	貯水量 (万 m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	7,438	64%
奈良俣ダム	8,500	4,039	48%
藤原ダム	3,101	1,102	36%
相俣ダム	2,000	926	46%
藺原ダム	1,322	484	37%
ハッ場ダム	9,000	6,859	76%
下久保ダム	12,000	4,450	37%
草木ダム	5,050	4,004	79%
渡良瀬貯水池	2,640	805	30%
9 ダム合計	55,163	30,107	55%
8 ダム合計の平均値 (平成 4 年～令和 6 年)		35,333	(平均値に対して 85%)

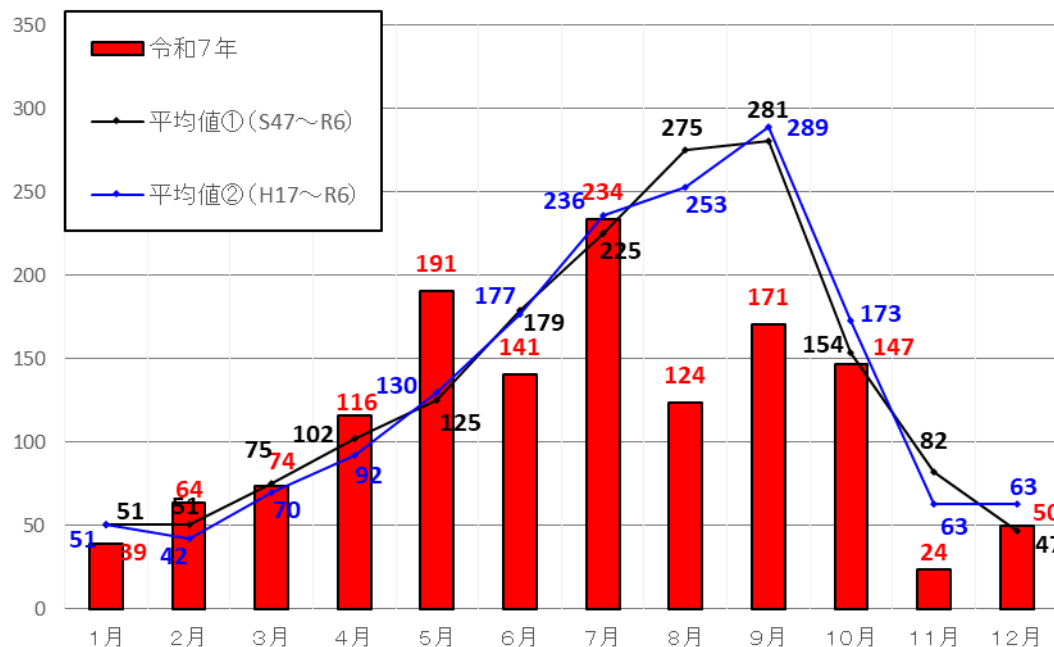
※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず 8 ダムの合計貯水量で計算したもの

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和7年12月22日0時までの降水量）

佐貫地点（栃木県塩谷町佐貫地先）上流域における降水量は、8月から11月まで、平均値（昭和47年～令和6年の53年間の平均）を下回る状況が続きました。10月は平均値154mmをわずかに下回る147mmとなりました。11月は平均値82mmの約3割である24mmと特に少ない状況となっています。（図－9、表－3 参照）



図－9 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和7年12月22日0時まで）

表－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和7年12月22日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成26年	13	121	94	77	100	437	223	355	109	271	72	85	1,957
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420
令和6年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561
平均値① (S47~R6)	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647
平均値② (H17~R6)	51	42	70	92	130	177	236	253	289	173	63	63	1,639
令和7年	39	64	74	116	191	141	234	124	171	147	24	50	1,375
平均値③に対する割合 (%)	76%	125%	99%	114%	153%	79%	104%	45%	61%	95%	29%	106%	83%

注) 平均値①はデータが存在する期間（53ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 鬼怒川上流 4 ダムの貯水状況等 (令和 7 年 12 月 22 日 0 時現在)

鬼怒川上流 4 ダムでは、9 月以降、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は増加しました。その後、貯水量は徐々に増加し、令和 7 年 12 月 22 日 0 時時点の合計貯水量は 1 億 5,837 万 m³ (貯水率約 63%) となっています。

(図-10、表-4 参照)

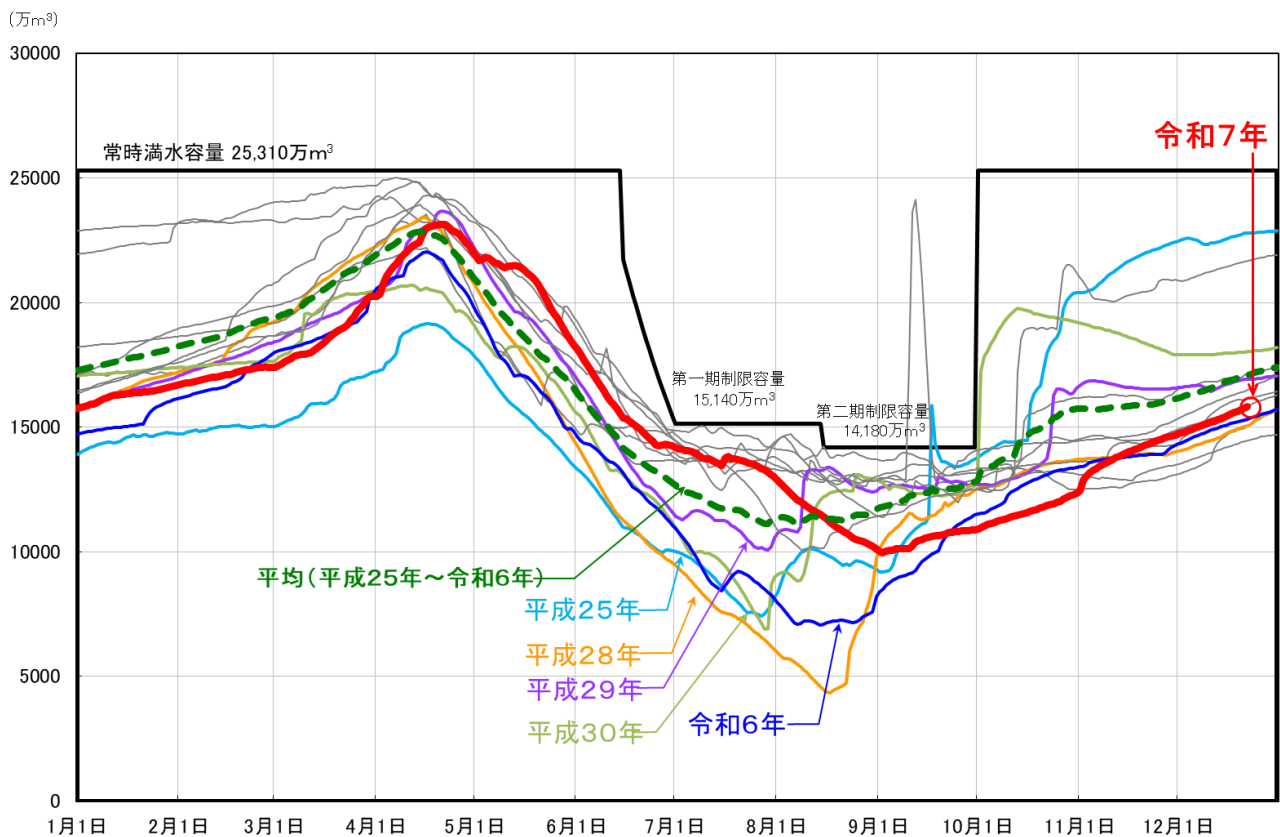


図-10 鬼怒川上流 4 ダム合計貯水量図 (令和 7 年 12 月 22 日 0 時現在)

表-4 鬼怒川上流 4 ダム ダム別貯水量 (令和 7 年 12 月 22 日 0 時現在)

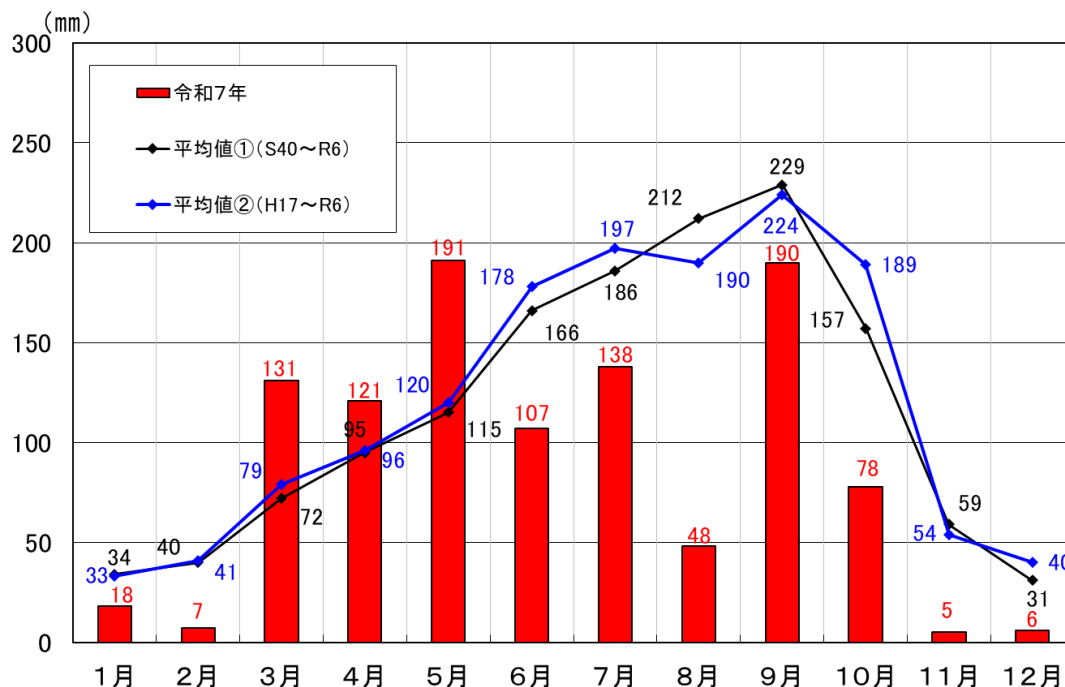
ダム名	有効容量 (万 m ³)	貯水量 (万 m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	3,200	661	21%
川俣ダム	7,310	6,517	89%
川治ダム	7,600	4,878	64%
湯西川ダム	7,200	3,781	53%
4 ダム合計	25,310	15,837	63%
4 ダム合計の平均値 (平成 25 年～令和 6 年)		17,087	(平均値に対して 93%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和7年12月22日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における降水量は、6月以降、平均値（昭和40年～令和6年の60年間の平均）を下回り続けています。10月は平均値157mmの約5割である78mmとなりました。11月は平均値59mmの約1割である5mmと特に少ない状況となっています。（図－11、表－5 参照）



図－11 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年12月22日0時まで）

表－5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年12月22日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464
平均値①に対する割合 (%)	76%	149%	175%	76%	140%	111%	55%	196%	50%	93%	110%	6%	105%
平均値① (S40~R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396
平均値② (H17~R6)	33	41	79	96	120	178	197	190	224	189	54	40	1,441
令和7年	18	7	131	121	191	107	138	48	190	78	5	6	1,040
平均値③に対する割合 (%)	53%	18%	182%	127%	166%	64%	74%	23%	83%	50%	8%	19%	74%

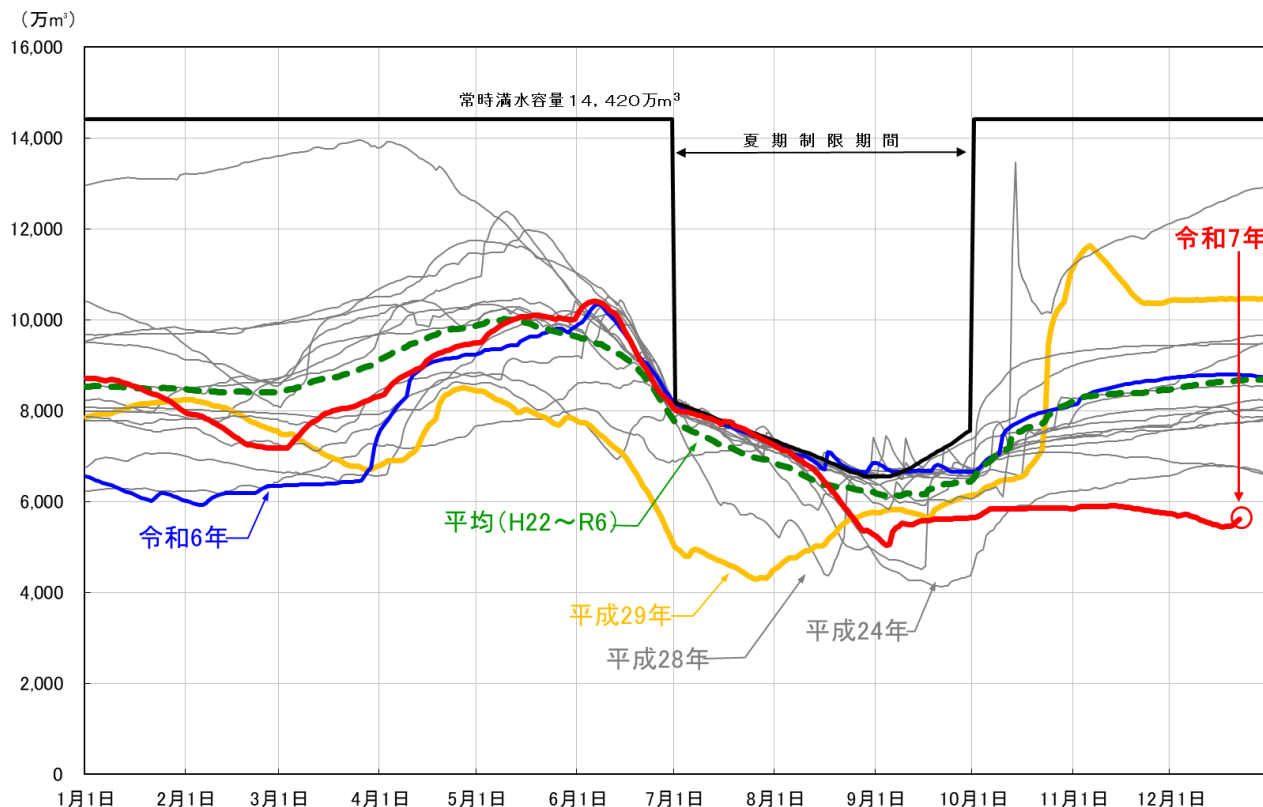
注) 平均値①はデータが存在する期間（60ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和7年12月22日0時現在）

荒川4ダムでは、9月以降、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は回復しました。その後、貯水量が大きく回復するような秋雨等のまとまった降雨もなく、11月中旬から徐々に貯水量が減少し、令和7年12月22日0時時点の合計貯水量は、5,611万m³（貯水率39%）となっています。

（図－12、表－6 参照）



図－12 荒川4ダム合計貯水量図（令和7年12月22日0時現在）

表－6 荒川4ダム ダム別貯水量（令和7年12月22日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	46	2%
滝沢ダム	5,800	1,941	33%
浦山ダム	5,600	2,804	50%
荒川貯水池	1,020	820	80%
4ダム合計	14,420	5,611	39%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和6年)		8,664	(平均値に対して65%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

2. 今後の見通し

気象予報

また、令和7年11月25日気象庁発表の3か月予報(令和7年12月から令和8年2月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が40%、降水量は「少ない」の確率が50%となっています。

3か月予報（令和7年11月25日発表）

気温、降水量の各階級の確率（％）				
気温	関東甲信地方	12月～02月	<div><div>30</div><div>30</div><div>40</div></div>	
		12月	<div><div>30</div><div>30</div><div>40</div></div>	
		01月	<div><div>30</div><div>40</div><div>30</div></div>	
		02月	<div><div>30</div><div>40</div><div>30</div></div>	
降水量	関東甲信地方	12月～02月	<div><div>50</div><div>30</div><div>20</div></div>	
		12月	<div><div>50</div><div>30</div><div>20</div></div>	
		01月	<div><div>40</div><div>40</div><div>20</div></div>	
		02月	<div><div>40</div><div>40</div><div>20</div></div>	
降雪量	北陸地方	12月～02月	<div><div>30</div><div>40</div><div>30</div></div>	

低い(少ない)平年並高い(多い)